

人権あらかると



フライドチキンの秘密

上原 善（ノンフィクションライター）

ハンバーガーもそうだが、フライドチキンは KFC（ケンタッキー・フライド・チキン）などのファーストフード店の展開で、いまや日本全国で食べることができる。アメリカでは国民的料理といえる。そして、そのフライドチキンがどうして「黒人奴隷料理の代表」なのか。日本の被差別部落のあぶらかすは、そもそも食べにくい内臓を食べやすいようにカリカリに揚げたものだ。しかし鶏肉は煮ても焼いても特にクセもないし、比較的食べやすい食材でもある。

アメリカ南部で知り合った女性にたずねると「ほら、白人農場主が食べずに捨てた鶏の手羽先や足の先っぽ、首なんかを、黒人奴隷たちはディープ・フライにしたの。長い時間油で揚げると、骨まで柔らかくなって、そんな捨てるようなところでも、骨ごとおいしく食べられるようになる。揚げた方が満腹感あるしね」。これがフライドチキンのルーツだったのだ。

「白人家庭の料理も黒人奴隷の賄い婦がしていたから、肉の部分も、自分たちがいつもしていたのと同じように、20～30分ほどディープ・フライにして出したの。そしたら柔らかくておいしかった。それで白人の間にも広まり、それが今や南部の名物料理、ディープ・フライドチキンになったというわけ」。

上原善広「被差別の食卓」（新潮新書）より

回転木馬お話し会

ゼロ歳児のベビーAと1歳～2歳児のベビーBの二つのベビーサークルが合同で、瀬戸児童館でのお話し会に参加した。

そこへ指導する「回転木馬」の先生が登場して「ここは母さんに似たところ～、だいどうだいどうコチョコチョココチョコ！」と歌いながら子どもをくすぐる。参加したお母さんも自分の子どもをくすぐってスキンシップ。歌は続いて「母さん」が「父さん」や「ばあちゃん」へと言い換えられる。

次いで紙芝居が始まる。絵の中に自動車、飛行機、汽船などの一部が見えて、その乗り物は何か、をあてさせる。判断できなければ、見える部分がだんだんと大きくなって、子どもたちの反応はにぎやかになる。続いて絵本を見せてくれた。画面いっぱいラッコちゃんが描かれていて、可愛い動きの説明に子どもたちは吸い込まれていく。また、ライオンの姿が一瞬にしてゾウさんに変身する動物の切り抜きも登場してみんなを喜ばせた。最後に、「さよならアンコロモチ、またキナコ！」という先生の歌でこの日は終了。



「人権のつどい日」にひろう

毎月11日は19時30分より瀬戸会館で、どなたでも自由に参加できる人権に関するさまざまな講演や学習会を行っている。4月11日（木）は今年度最初の「人権のつどい日」でDVD『おーい！』を視聴。

建設会社に勤める主人公はマンションの建設予定地が同和地区かどうか調べる用務を与えられ、市の同和对策室を直接訪れて確認しようとする。同和问题に対する主人公の無知・無関心から引き起こす出来事と会社の姿勢などをめぐって参加者が話し合った。そのなかでこの教材としての限界、問題点も指摘されたが、「差別はどこに残っているか」というと、差別する側の心の問題、「自分が差別をなくす側の立場に立つか、傍観者として差別を残す側に立ってしまうのか。なくす側に立つのならば、いろんな研修の場に参加して、自分の中にあるものを新たなものにしていかなければ」、「どういう立場に自分を立たせるのか、変容させるか、そのことが人権のつどい日のねらいだと思うし、『知らなかった自分』を発見して自分を変えていける、それが一番素晴らしいことだと思う」など、終了予定時刻を超えて次々と意見が述べられた。

また、高校では人権学習の副読本『人間の輪』を保護者に先に手渡すという実践が紹介された。

5月から
 仮称「^{きてみんかい}乗観会」を瀬戸会館で開催！！
 毎月第3木曜日（5月は**16**日です。）
 19:00～21:00 まで事務所開放。
 ワイワイとかガヤガヤとか、
 何でもつぶやいてみませんか？
 ともかく瀬戸会館まで
 来て観てください。



そうだんしつ
相談室

- 5月の主な行事予定**
- 8・22日(水) — 移動図書館
 - 11日(土) — **人権のつどい日**
19:30～21:00
 - 講演** 演題「人を大切にする生き方」 講師 民生委員児童委員 高津 英正さん
 - 月2回(木) — 絵本・紙芝居 お話し会